

赤十字

赤十字の人道活動は皆様方の
日本赤十字社活動支援費(日赤社費)で行われています
ご協力をお願いします

NEWS in 徳島

ニュース

第32号

平成26年12月
発行

発行所 日本赤十字社徳島県支部
〒770-0044 徳島市庄町三丁目12番地1
TEL 088-631-6000
FAX 088-631-6100
URL <http://www2.tcn.ne.jp/~jrcawa1/>



相次ぐ台風 ―支部は素早く救援物資を搬送―

日赤県支部職員と連携して救援物資を搬入する阿南市職員(中央)と赤十字奉仕団員(左)

島市や阿南市、美波町、海陽町を中心に広範囲な浸水被害が発生。10日に上陸した台風11号では那賀川の増水により、那賀町鷺敷と阿南市加茂谷の両地区が大規模な浸水被害に見舞われ、那賀町には災害救助法が適用されました。

市町村の赤十字担当者や地元の赤十字奉仕団等が中心となり、床上浸水した被災者宅等を訪問して、毛布1604枚、歯ブラシや携帯ラジオ、懐中電灯などが入った緊急セット661セット、タオル約8000枚、石鹸約8000個を被災者に届けました。

暑い中、後片付けに追われる被災者の身体を気遣いながら「二日も早く日常生活に戻れることを心から願っています」と奉仕団員が救援物資を手渡すと、「こうした物資は本当にありがたい」と受け取り、床上まで浸水してきた時の様子を話される姿も見られました。



氾濫した那賀川(阿南市提供)



被災者に救援物資を配布する赤十字奉仕団員

8月上旬、立て続けに本県に接近・上陸した台風11号・12号による記録的な集中豪雨により、県内各地で甚大な被害が発生しました。

8月2日に接近した台風12号では小松

赤十字の救援物資



災害時には毛布や緊急セット(懐中電灯、携帯ラジオ、その他日用品など)等を迅速に届けます。

当支部では物資搬送等の救援活動に続き、義援金募集を開始。募集開始直後から企業や個人の方々による心温まる義援金が多く寄せられました。

24時間テレビチャリティー委員会様からは、義援金500万円が寄託され、委員会を代表して四国放送の漆原完次社長が飯泉嘉門日赤徳島県支部長へ目録を手渡しました。

義援金は、徳島県に設置されました義援金配分委員会を通じて被災者に届けられます。



24時間テレビの義援金500万円を飯泉支部長へ寄託する四国放送の漆原完次社長(右)

被災者支援で
義援金を募集

～ありがとうございました～

平成26年徳島県台風11号・12号災害義援金

受付総額 2,045件 46,337,081円

内日赤受付分 1,421件 23,430,719円

※11月14日現在入金処理済額

10月31日まで募集した「平成26年徳島県台風11号・12号災害義援金」に多くのご支援をいただき、誠にありがとうございました。

お寄せいただきました義援金は徳島県の義援金配分委員会を通じて、被災者の皆さまにお届けさせていただきます。



キョーエイ会様からも50万円の義援金

「災害救護支援ボランティア」を初めて養成

災害時には被災地で医療活動を展開する赤十字救護班。各避難所との連絡調整など、医師や看護師の医療活動をサポートするのが「主事」と呼ばれる班員です。

救護の現場では、この主事業務が重要となることから、当支部では、主事を支援する「赤十字災害救護支援ボランティア」の養成を今年度から始めました。

9月28日、当支部で開催した研修会には災害関係の特殊奉仕団から精鋭17名が参加。救護所となる大型テントの設営や無線交信等の訓練を行い、技術を磨きました。

修了したボランティアは、習熟訓練を繰り返して技能向上を図り、「いざ」という時の支援要請に備えています。



大型テントの説明を受ける参加者

シリーズ 徳島赤十字病院 第7回 小児科

徳島赤十字病院の診療科をご紹介しますシリーズ「徳島赤十字病院」。今回は、小児救急医療の拠点として、未来を担う子どもたちの尊いいのちを守るために、小児救急医療に力を注いでいる小児科です。

24時間365日、小児救急患者を受け入れ

小児科部長 中津 忠則

小児救急医療拠点病院の指定を受ける当院は、24時間365日すべての小児救急患者（救急搬送、他院からの紹介、急病であり深刻な事態と自ら判断して来院）を受け入れ、小児科入院ベッドを常に確保するなどして、病院理念である「断らない医療」を実践しています。

地域の医療機関とも常日頃から密に連携をとり、かかりつけ医や夜間休日急病診療所、輪番制救急病院から、必要な場合は当院へ紹介していただき、夜間・休日も高度な専門的医療を提供できる体制をとっています。

小児血液腫瘍に対しては、チーム医療を行います。小児がんは外科医や放射線科医と協力して集学的治療を行い、難治例には骨髄移植など造血幹細胞移植を行っています。再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病、血友病など血液疾患の治療も実施しています。また、小児心身症外来、神経外来、循環器外来、アレルギー外来などを設け、より専門的な診療を行っています。



災害時には被って逃げて！ 赤十字ボランティアが 防災ずきん350枚をプレゼント

9月19日、県内の地域赤十字奉仕団10団が、福祉施設の利用児者のために防災ずきん350枚を贈呈しました。

徳島赤十字ひのみね総合療育センターで行われた贈呈式には、奉仕団を代表して7名が出席。阿南市地区赤十字奉仕団 山口分団 渡守一恵委員長から「一針ごと、安全を願って縫いました。災害時には被って避難してください」と橋本俊顕 園長と村上哲史 ひのみね療護園自治会長に手渡しました。受け取った橋本園長は「緊急時等には1人のけが人も出さないように努力します。皆さんの心温まる活動に感謝します」とお礼を述べました。



防災ずきんを試着する利用児者

贈られた防災ずきんは、ガラス片や火の粉から頭部を守るだけでなく、避難所で座布団代わりとして、また縫い糸をほどけばタオルとして、さらに縫い込んでいるビニール袋にお薬手帳や生活用品を入れておくこともでき、多様性に富んでいます。



羽ばたけ未来のリーダー

夏休み期間中に開催している「青少年赤十字徳島県リーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）」今年度は、昨年までの参加者を大きく上回り、小・中・高等学校、合わせて86名が参加しました。

赤十字や青少年赤十字についての学習をはじめ、災害時に役立つ応急手当や炊き出し訓練を体験。

さらに、学んだことをオリエンテーリング形式で振り返る「フィールドワーク」にも挑戦しました。

参加したメンバーからは「指示が無いので自分で考えたり、友達と相談して行動するのが大変だった」「学校で教えてくれない事も学べて楽しかった」とそれぞれ学びがあったようでした。

この体験を活かし、青少年赤十字のリーダーとして活躍することを願っています。



トレセンって楽しいよ！

新たに「子育て支援車両」が 徳島赤十字乳児院へ

日頃から徳島県赤十字有功会の会員として、赤十字社の人道活動に多大なご支援をいただいている株式会社阿波銀行様から、「子育て支援車両」が乳児院へ贈られました。

8月8日に行われた贈呈式では、チャイルドシートとジュニアシートを搭載した車両の前で、(株)阿波銀行古川武弘相談役から新居乳児院長に記念鍵を贈呈。当支部の小森事務局長から、「今後の活動の中で、大いに活用させていただきます」と、感謝状とともにお礼の言葉が述べられました。



記念鍵を手渡す古川武弘相談役(右)

この車両は、入所児の小児科受診の送迎や社会性を育むための行事活動、他施設との交流等に活用し、子どもたちの健やかな成長を支えています。

人道紙芝居いよいよ上演開始

第一次世界大戦時、捕虜となったドイツ兵を赤十字精神によって人道的に待遇し、「奇跡の収容所」と呼ばれた板東俘虜収容所。このたび当支部では青少年赤十字賛助奉仕団などの協力を得て、この人道的な板東俘虜収容所を題材にした紙芝居を作成しました。

11月1日には、子どもたちにわかりやすく伝えるため、「語り部養成研修会」を開催。

県内各地から30名が参加し、板東俘虜収容所で展開された史実や人道精神について知識を深め、また語り部としての技術や表現方法の指導を受けました。

修了証を受け取った参加者からは「当時の人々の気持ちまで伝えることができる語り部として活躍したい」と上演が待ちきれない様子でした。



練習の成果を披露

上演を希望される方へ

お問い合わせ先

日本赤十字社徳島県支部 事業推進課 Tel:088-631-6000

徳島ヴォルティスとコラボして 赤十字をPR！

徳島ヴォルティスとコラボした赤十字活動のPRイベントを、去る10月18日、ボカリスエットスタジアムで開催しました。

赤十字コーナーには、東日本大震災後に整備したフレーム式の大規模救護テントを設営。AEDの体験コーナーをはじめ、救護物資・救護装備の展示、また赤十字子ども救護服を着用しての写真撮影会や献血などを実施しました。

2011年、元サッカー日本代表の松田直樹選手が練習中に心臓

突然死したことを受け、当支部職員が大勢のサポーターが集まるイベント広場でAEDの必要性を訴え、使い方を実演。その後、徳島ヴォルティスのヴォルタくん・ティスちゃんが見守る中、サポーターが次々にAEDを体験しました。

体験者からは、「いざという時には、勇気をだしてAEDを使った」といなどの頼もしい声が聞かれました。



マスコットキャラクターも見守る中、救急法指導員がAEDの使い方を説明

「香典返し」にかわる思いの伝え方

感謝の気持ちとして「お返し」をするのは、伝統的な日本の習慣です。

タオルやお茶などの日用品を贈ることが一般的なのですが、最近、こうした品物を贈るかわりに赤十字の人道活動へ寄付したいとのお申し出が寄せられています。

赤十字ではその尊いご厚意に対し、挨拶状を作成し、ご遺族の思いや赤十字からのお礼をご会葬の皆様にお届けさせていただいております。

案内パンフレットを作成していますので、ご希望の方は、当支部事務局までお問い合わせいただくか、当支部ホームページからダウンロードのうえご覧ください。

■「香典返し」に替えて、ご寄付をいただきました。

上原 健治 様 (小松島市) ※ 他匿名希望の方 1 名
矢野 満夫 様 (鳴門市)
壽美子 様

ご意志に沿い、赤十字の人道活動に有効に活用させていただきます。

お問い合わせ先

日本赤十字社徳島県支部 総務課 Tel:088-631-6000



「香典返し」寄付案内パンフレット

支えてくれた皆さまへ 赤十字を通じて社会へ恩返し

- 田村電設株式会社 様から創業 35 周年記念のご寄付 -

吉野川市山川町の田村電設株式会社様から創業35周年を迎えたのを記念し、100万円のご寄付をいただきました。

田村電設様は、環境保全や社会貢献活動などにも会社一丸となつて積極的に取り組まれており、今回のご寄付はそのひとつとして、オフィスに募金箱を設置して集まった25万3250円と35年間会社を支えてくださった皆さまに對しての感謝の気持ちを合わせたものです。

9月3日に行われた贈呈式では田村雅夫会長と正木弘次社長から小森事務局局長に「今まで私たちに支えていただいた感謝の気持ちです。災害対策にお役立てください」と寄付金が手渡されました。



寄付金を手渡す田村雅夫会長(中央)と正木弘次社長(左)



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社 スローガン

アニメで若者にアピール!! マチ★アソビ献血

10月11～12日に行われたアニメイベント「マチ★アソビ vol.13」。献血バスと献血ルーム アミコでまたまたコラボしました。今回の記念品は、人気アニメ「Fate/Zero × 献血」特製ポスター。2日間で合計 324 名の方に献血のご協力をいただきました。



子供たちに伝えたい!! 「夏休み親子血液ゼミナール」



将来を担う子供たちに献血の大切さを伝えるため、小学生の親子（4年生以上）を対象とした「夏休み親子血液ゼミナール」を開催しました。7月19日から27日までの期間中、計165名の親子が参加。スライドを見ながらの血液や献血の話、〇×クイズ、血液センター内部（輸血用血液の冷蔵庫など普段見られない裏側も!!）や献血バスの見学を行いました。参加者からは「献血された血液が患者さんに届くまでの過程がよく分かった」「大きくなったら献血したい」などといった声が聞かれました。

将来を担う子供たちに献血の大切さを伝えるため、小学生の親子（4年生以上）を対象とした「夏休み親子血液ゼミナール」を開催しました。7月19日から27日までの期間中、計165名の親子が参加。スライドを見ながらの血液や献血の話、〇×クイズ、血液センター内部（輸血用血液の冷蔵庫など普段見られない裏側も!!）や献血バスの見学を行いました。参加者からは「献血された血液が患者さんに届くまでの過程がよく分かった」「大きくなったら献血したい」などといった声が聞かれました。

徳島ヴォルティスの試合で献血!!

10月18日に鳴門市のポカリスエットスタジアムで行われた「徳島ヴォルティス VS ヴィッセル神戸戦」。赤十字活動PRイベントのひとつとして、献血バスが参加しました。献血記念品は「ヴォルティス選手サイン入りフラッグ」。雲ひとつない空の下、青いユニフォームのサポーターのみなさんがずらっと並ぶ姿も見られ、63名の方にご協力をいただきました。



平成26年度献血推進ポスター&献血 「キミに伝えたい愛のメッセージ」入賞作品発表

県内の中学生・高校生の方々に献血への理解と関心を深めていただくために献血推進ポスターと、献血「キミに伝えたい愛のメッセージ」を募集しました。応募作品を審査した結果、ポスター最優秀賞に中川 優香さん（江原中3年）、メッセージ最優秀賞に小野瀬 未樹さんの作品が選ばれました。

お姉ちゃんと2人で初めての献血。並んで献血。
1人は不安だけど2人なら大丈夫。
ほんの少しの勇気が2人分。誰かの命につながりますように。
小野瀬 未樹さん

ポスター優秀賞

山口 千晶さん（阿波中3年）、奥山 幸保さん（徳島商業高1年）、野田 二千桂さん（吉野中3年）、上地 里香さん（石井中3年）、秋山 陽菜さん（池田中3年）、田中 乃愛さん（阿波中1年）、松井 美季さん（岩倉中3年）

メッセージ優秀賞

中村 優李さん、宮崎 愛子さん、上岡 万莉さん、佐藤 眞由美さん、千田 康治さん

※入賞作品は、徳島県及び血液センターホームページでご覧になれます。また、平成27年3月末まで血液センターと献血ルーム アミコ内で展示しております。



中川 優香さん

平成26年6月より献血の受付方法が 変わりました

- ①電子カルテ化によりペーパーレスに
- ②問診はタッチパネルで
- ③生体（指静脈）認証で本人確認

血液の不足状況、 各種イベント情報はホームページで

<http://www.tokushima.bc.jrc.or.jp/>

または

徳島県赤十字血液センター

検索

<日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します>

・日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-6000 ・徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノ口103 TEL:0885-32-2555
・徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4-1 TEL:0885-32-0903 ・徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-3200
・徳島赤十字乳児院 小松島市中田町新開2-2 TEL:0885-32-0555